

三重県産木材で
家を建てた人たち

実例集
Vol.2

1

大内山村Oさん邸の場合

健康的で省エネルギー 快適さを求めたら、外断熱の杉の家に。

ドアを開けると、すがすがしい杉の香りが漂う。玄関から続くリビングは、梁が剥き出しの吹き抜け。それにキッチンと、床を一段高くした和室とがつながって広々としたワンルームになっている。

構造や内装材には県産の杉を使用。薄めた柿渋を施主自らが塗り、落ち着いた色合いに仕上げた。珪藻土の壁、天板にトチを使った謎えのキッチンカウンターやテーブルと、自然素材が多用されている。

理想の間取りをパソコンで自作し、建築家の元を訪れたという施主がめざしたのは、衛生的で機能的な家。最初から自然素材ありきではなく、自分好みのテイストを盛り込んでいったら、必然的に木の家になったのだという。

「家が長持ちするかどうかは結露の有無で決まります。木の健康を保つため、外断熱工法を採用し、外壁は耐候性の高いサイディング張りとなりました」木にやさしい環境は、人にもやさしいというのが建築家の考えである。

「おかげで、冬の朝でも寒いと感じないですね。よほど保温性がいいでしょう」

安定した室内環境が保たれたこの家では、室内を移動しても温度差をほとんど感じない。開放的な造りながら、省エネルギーにも成功した好例といえるだろう。

ロフトから見下ろすリビング。一段高くなった和室部分はロールカーテンで仕切れるようになっている。



写真右／床と天井、腰壁に杉板が張られた玄関。
写真中／キッチン上部に設けられたロフトは、杉色の空間。
写真左／内装材を守るべく、外壁は耐候性の高いサイディング張りに。窓は全て二重ガラスにして、断熱効果を高めている。遮音性もすぐれており、国道沿いにも関わらず、車の音はほとんど気にならない。

●設計／マツザカCADサービス建築事務所 TEL.0598・39・3433
施工／三晃建設 TEL.0598・58・1963
●建築坪単価 約60万円(設計・監理除く)

2

久居市Uさん邸の場合

木の良さを活かした ユニークな多層構造の家

「開放的なリビングと、隠れ部屋のような遊びの空間。そして庭代わりの広いウッドデッキが欲しい」

限られた土地で、施主夫妻の要望に応えるための工夫は、外観からはちよつと想像しがたいユニークな多層構造となつて現れた。

一階をワンフロアのリビング・ダイニングとし、中二階に寝室、二階に子ども部屋、寝室の上部にはロフト、下部には半地下で浴室や倉庫が設けられている。

構造材や一階壁面に杉、床や屋根、二階壁面には杉。地元材を惜しみなく使つたこの家の木材使用量は、一般的な木造住宅の十倍近いという。

「素足で歩くのが気持ちいいから」と、フロアには木目の凹凸が感じられるスギ圧密材を採用。

壁面の杉は板張りではなく、十二センチの角材を八本ずつボルトで締めパネル状にしたものが、ツイバィフォー工法式に積み上げられている。

調湿や断熱効果に優れるのももちろん、耐震性も土壁の約七倍と、木の長所をあますことなく引き出した造りとなっているのだ。

「木の良さを活かしたい。国産材の需要を増やし、地場産業の林業や製材業を守りたい」と願う設計者の思いから生まれた新たな工法は、空間を有効に活用できるメリットもあつて、福祉施設などの建築でも広がりを見せはじめている。



写真右／スペイン風の瓦屋根にとび出したドーマーが特徴的。
コンクリート部分には半地下の浴室が配されている。

写真中／子どもの遊び場としても活躍中のウッドデッキ。
写真左／階段の踊り場に立つと、多層構造がよく分かる。

- 設計／創設計株式会社 TEL.0598・21・6850
- 施工／ウッドピアハウス TEL.0598・20・2552
- 建築坪単価 約65万円(設計・監理除く)

無垢材も賢沢に用いた吹き抜けのリビング。床は杉の圧密材、壁には杉の角材パネルを使用。
階段の木口に被さる金属板、輪切りにした大木、スチールの黒い手すりなど、随所に遊びごころも。

3

津市Nさん邸の場合

職人たちの技を集め 伝統工法・材料で建てた家

数寄屋風のしっとりとした外観。ゆるやかなスロープから玄関へとつながる敷石を進むと、風流な濡れ縁が目に入る。

格子戸をくぐると、ほのかに木の香を感じた。

襖を開け放った和室は、土壁に丸く抜かれた窓から射す、障子越しの柔らかな光に照らされ、しんとした空気をたたえていた。

縁座敷から板張りの廊下、それにつながる広々としたリビングの床には、足触りのよい、県産杉の圧密材が用いられている。

道端の草や庭先の花を愛で、季節の移ろいを感じる自然な感覚、現代人の多くが忘れつつある感性を取り戻せる家を。設計者からの提案を受けて、施主は、伝統工法による家づくりを決めた。

「人も自然の一部。住まいづくりに使う材料はその土地や風土にあった地元のもの、そして自然に還る無害なものを使うのが基本だと思っんです」

この家は、大工でもある設計者が、左官、建具師、畳師、瓦師、板金工など、職人たちの技を集め、二つひとつの過程にじっくりと時間をかけて建てられた。手入れを怠らなければ、百年以上でも保つ。

経年により味わいを増す長寿命の家づくりには、施主と施工者の両方に、心のゆとりと伝統文化を大切にする気持ちが必要といえそう。



写真右／すがすがしいイグサの香りが漂う二間続きの和室。丸窓から差し込む光が、やわらかな陰影を見せる。

写真中／洗面脱衣所やトイレなど、水回りにも無垢材を多用。杉圧密フロアは、足裏の感触が心地よく、夏涼しく、冬は温かい。

写真左／玄関の壁は現在中塗りの状態だが、じっくり乾燥させた後、珪藻土で仕上げられる予定だ。

●設計・施工／風雅工房 TEL.059・265・2315

●建築坪単価 約70万円（仕様により異なる）

庭を囲んでL字型に配された構。ご近所との交流に、日向ぼっこに、濡れ縁が活躍する。

4

明和町Tさん邸の場合

日本古来の木と土壁で 二つの表情を持つ家にしました。

オーナー夫妻の希望は、いたってシンプルだった。「日本人なんだから、日本古来の家がいい。国籍のわからないような家には住みたくない」

伝統的な土壁工法で建てられた切妻の家は、外壁の腰下は杉板張り、腰上は珪藻土塗り、京都の町家を思わせる落ち着いたたたずまい。

小路のような敷石の通路で玄関へ。木製の引き戸を開けると、そこは広い土間になっており、右手にはステップフロアで板敷きの居間が、左手には畳敷きの和室が配されている。

土台や通し柱の尾鷲桧、床や壁板に用いられた飯高産の杉は、すべて植物系塗料で古色仕上げされ、アンティーク調の照明や調度とともに、新築ながら古民家の趣をかもしている。気密と断熱性を考えて、窓はサッシとしているが、内側に障子戸がはめられているので、「見それとは気づかない」

「訪ねてくる友人が、みな和風喫茶か蕎麦屋みたいと言っていますよ」

二階に案内されて、さらに驚いた。無垢の木と白壁が組み合わされた、階下とは全く違う清新なイメージなのだ。キッチンや浴室、寝室などは、日当たりのいい二階に集められている。

オーナー夫妻は、二世帯住宅もかくやの、二つの個性的な空間を日々楽しんでいる。



写真右／京都の町家わきの小路を思わせるアプローチ。
写真中／二階は生成の木と白壁で、イメージを一転させている。
写真左／外壁の一階部分は古色仕上げの杉板張り、二階には明るい珪藻土が塗られている。

●設計・施工／木工房アイビー TEL.059・228・3077
●建築坪単価 約60万円（仕様により異なる）



階段室と居間はステップフロアでつながる。新築ながら、植物系塗料で木材に古色をかし、落ち着いた空間に。

5

御園村Tさん邸の場合

丸太の大黒柱に守られているようで 日本人と木の絆を改めて感じます。

新居を構えるにあたり、思案中だったオーナー夫妻の背中を押したのは、友人が建てた木の家だった。温かく伸びやかなたたずまいを気に入った彼らは、さっそくその家を手がけた建築家のもとを訪ねた。リビングでまず目を引くのは、丸太のまま用いられた三本の柱だ。夫人の父と建築家が、二見町松下の立ち木から選んだという松は、樹齢百年余。直径三十六センチ、高さ六メートルの堂々たる姿で、床から吹き抜けの天井まで貫いている。

その根元は、床暖房を配した土タイル敷きのラウンジビットになっており、一段下がった凹みに座ると、視線が下がって頭上空間がさらに広がる。

一階の和室、ダイニングキッチン、浴室、二階の寝室と子供部屋。どの部屋も、丸太大黒柱の立つリビングを囲むように配されている。大樹に見守られる安心感と、そこに集う家族の一体感が生まれるようにとの、建築家の目論見である。

構造材や床板には海山町産の松が、天井板には朝熊山麓の杉が使われるばかりか、造り付けの家具には松の集成材、建具やデッキ、外扉は杉と、徹底して地場産材が用いられている。

「二十年も経ては、いい鉛色になるやろなあ」
太古から、近くの木で家を建ててきた日本の文化を、人と木の絆として実感できる家である。



床暖房が配されたリビングは、一段下がったラウンジビット式。大開口でウッドデッキへとつながる。



写真右／1.4メートルと深めの軒が、落ち着いた印象を与える。
写真中／土タイル敷きのダイニングキッチンには、床暖房が配されている。
写真左／玄関上部の廊下。奥の子ども部屋には、あえて扉が付けられていない。
開口部の木製建具は引き込み式で、戸袋にすっきりと収まる。

- 設計・施工／つくる研究所・萩原建設 TEL.0596・26・3022
- 建築坪単価 約67万円(設計・監理除く)



志摩市Yさん邸の場合

バリアフリーの杉フロアが心地よい 熟年夫婦の終の棲家

「子どもたちも巣立ったし、夫婦二人でこぢんまりと住まう終の棲家が欲しい」

自営業のYさん夫妻は、温暖な英虞湾のリゾートに建築用地を求めた。

設計にあたり、以前から交流のあった住宅コーディネーターに相談をもちかけたところ、昔ながらの土や木で、現代的な使いよい家をつくると評判の建築家を紹介してもらうことができた。

モダンな外観の切妻平屋建てで、塀と統一された外壁は、表面が真っ黒に炭化した焼杉板張り。防水効果やメンテナンス不要の手軽さが、熟年夫婦にふさわしいと考えられてのことだ。

室内は二転、無垢の木肌が基調とされており、玄関からリビング、寝室、バス、トイレまで、県産の杉板を張った床が段差なしでつづく。これも将来、施主夫妻の足腰が弱った場合を想定しての、建築家の目配り。もちろん木の香による癒し効果や、裸足で歩いたときの心地よさも考慮の上である。

「木の床、土壁、障子や和の建具……友人が来ると、皆に『落ち着く、ええ家や』と褒められるんです。間取り以外、ほとんどお任せだったんですが、長年、木の家を手がけている方は間違いなかった」

建て主と建築家がしあわせに巡り会えると、こんなにもセンスのよい家ができる。



写真右上／天窓から光が射し込みリビング・ダイニング。キッチンや食器棚のほか、浴室や洗面所も手づくりされている。

写真右下／縁無しの方形畳が敷かれた和室。低い位置に窓を配し、木製建具を入れて雪見障子としている。

写真左上／住居とアプローチは、焼杉とガルバリウム鋼板のモトーンでイメージを統一。目隠し壁にアースカラーをあしらった。

●企画／藍住空間プランニング TEL.0596・44・2555

設計／a+s建築設計事務所 TEL.0598・74・2300

施工／ウメダハウジング TEL.0598・85・0375

●建築単価 約60万円（設計・監理除く）



表面を炭化させた焼杉張りの外観に、べんがら塗りの玄関ドアがアクセントを添える。



7

志摩市Mさん邸の場合

手間と時間をかけて

深まっていく味わいを楽しむ家

大きな引き戸が広々と開け放たれた吹き抜けの玄関。見上げると、その空間をぐるりと囲む形で、二階の部屋が並んでいる。

「家のどこにいても、人の気配が感じられる造りにしたかった」と話す施主の言葉通り、障子やのれんという二応の区切りはあるものの、家の中は一つの空間としてつながっているのだ。

「建てるなら木の家をといて思えばあったのですが、納得のいく形が見つからず、あちこち出掛けては、理想の家を探していました。そんな時、目についたのが、建築家の事務所だったんです」

建築家との出会いを、施主は天啓と感じた。

尾鷲松と、施主自らが探した飯高の杉を贅沢に用い、二階の半分以上を土間としたこの家のモチーフは、昭和初期の和風旅館である。

露天気分が楽しめる浴室、天井に竹をあしらった和室など、随所に和の情緒あふれる趣向がこらされていく。どこにいてもくつろげる。

「薪割りに貯水槽の水運びと、自分たちが動かないと暮らせない仕組みにしています。そういう手間があるからこそ、住むのが楽しい」

先人たちの暮らしがそうであったように、手間と時間をかけながら、木の色や土の風合いが少しずつ味わいを深めていくのを実感できる家なのだ。



窓を開けると、丘を駆けのぼる風が吹き抜け、夏場でもエアコンの使用は最小限。



無垢の杉板をふんだんに用いた広間。大きな引き戸を戸袋に仕舞えば、屋外と一体化する。



写真右／和食処のカウンター席を思わせるダイニング。月をイメージした壁の窓越しに、二階の家族とも会話できる仕掛けだ。

写真中／露天風呂気分が味わえる浴室は、開放部が大きいので、湿気がこもりにくいという利点も兼ね備えている。

写真左／黒い天井に濃茶の竹、土色を濃くした壁と、落ち着いた色調にまとめられた和室。

●設計／建築デザイン研究所(伊勢アトリエ) TEL.0596・63・0301

施工／大市建設 TEL.0599・53・0211

●建築坪単価 約70万円(設計・監理・太陽光発電等の特殊設備除く)



健康な暮らしと
ふるさとの環境
産業を守るために
家を建てるなら
近くの山の木で

三重県木材協同組合連合会

三重県津市桜橋1丁目104

TEL.059-228-4715 FAX.059-226-0679

<http://www.inetmie.or.jp/~mokuren/>

(注) 本書記載の建築坪単価は、あくまでも目安です。延べ床面積、地盤の状況、設備等によって異なります。また、設計・監理料を含むものと含まないものがあります。

三重県産木材を使う住まいのご相談は
